

令和5年度 ちべん保育園の自己評価

教育・保育理念	子どもにとって、もっともふさわしい教育・保育の場を保障し、愛護するとともに最善の利益を守りつつ、保護者及び地域の人々と共にその福祉を積極的に増進する。	
保育目標	集団生活の中で他者とのふれあいを通して、みんななかよく、たのしく生活できるよう、すなおな心、子どもらしい明るい心、やさしい心、感謝できる心を養い、また四季折々の活動や自然とのふれあいを通して豊かな感性と健康な身体を育む。	
	中・長期目標	本年度目標
園児：安心・安全な環境の中で様々な刺激を受けながら心と体を育み自尊感情と自己肯定感を高める。 職員：自己研鑽に努め、常に自己を高めていける保育教諭を目指す。 施設：地域、保護者に信頼されるこども園であることを心がける。		(1) 教育・保育の充実 (2) より安全な保育環境の提供 (3) 衛生環境の整備・改善 (4) 地域、小学校との連携 (5) 業務のIT化推進

	評価の観点	評価項目	今年度の状況
教育 保 育 の 計 画	(1) 教育・保育課程の編成	保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されたねらい、内容を生活に取り入れた編成	子どもの視点を意識し、子どもが主体となれるような保育を心がけた。
	(2) 指導計画の作成と展開	長期・短期計画の作成	長期的な計画は、全体的な計画、年間計画、月案によって見直しを持ち、短期的な計画は週日案による。子どもたちへの生活の連続性、姿を考慮し計画の作成を行っている。
		生活の連続性・子どもの姿を考慮	
	(3) 発達過程に応じた保育	未満児の個別計画	未満児は計画に沿いながら丁寧に関わるように心がけた。以上児は、みんなで取り組む課題や活動、異年齢交流を通して主体的な活動を促した。特に、3歳～5歳児クラスにて実施している専門講師による指導は、こどもたちの好奇心と学びへの意欲を高めるのに効果的であったと感じている。
以上児への協同的な活動の促し			
(4) 関係諸機関との連携	関係校区小学校との連携	コロナウィルス感染症が5類相当となり、小学校との交流事業へが再開され、連携を取ることができるようになった。五條南小学校の学校運営協議に委員として参加、小学校側との意見交換ができた。智辯学園吹奏楽部及び地元の金管バンドとの合同コンサートを開催、地域交流を深めることができた。	
	保護者・地域との連携		
健 康 及 び 安 全	(1) 子どもの健康状態	健康状態の把握と疾病への対応	感染症全般について個人情報に配慮の上、保護者への情報提供を行い、園での蔓延防止に努めた。
	(2) 環境及び衛生管理・安全管理及び業務の改善	設備・用具などの衛生管理	遊具等の定期点検や毎月の自主避難訓練を実施し、安心・安全な保育環境の提供に努めた。警報発令時等の緊急時にはアプリを通して迅速に保護者へ情報が伝わるようにした。消防署指導の下、災害避難訓練を実施した。
		安全点検・避難訓練の実施	
(3) 食育の推進	食育計画の作成と実施	アレルギーなどへの対応	食育計画を作成し、計画的に取り組んだ。特に菜園活動を通して、子どもたちの食べものへの興味、関心を高めることができた。
			アレルギー対応は、保護者、栄養士との連携を取り、除去食の提供をするなど可能な限り対応を行った。

職員 の 資 質 向 上	(1) 施設長の責務	法令遵守・職員指導	労務、消防、福祉、保健関係の法令について各遵守を心がけた。職員指導については、朝礼、会議、回覧版などを通して周知、指導に努めた。昨年度に引き続き、不適切保育が行われていないかに注意をはらい、内部研修の実施や書籍の配布などを通して、職員が各自の保育を見直す機会を持った。また、通園バスの園児置き去り事故が発生しないよう、警報装置をバスに設置した。
	(2) 自己研鑽	研修会等への積極的な参加	各種団体の研修会に参加するように努めた。また、キャリアアップ研修の受講ができるよう情報提供及び勤務時間の調整を行った。
	(3) 目標管理	一年間の目標と振り返り	年度末にチェックリストを通して達成状況を確認した。また、保護者アンケートを実施し、保護者目線からの意見を聞いた。

令和6年3月31日

社会福祉法人智辯会
 幼保連携型認定こども園ちべん保育園
 理事長・園長 大森 圭祥